

「お盆行事のお知らせ」



令和3年8月

◇両讚寺・恵心寺 盆日程

- ・恵心寺墓回向
八月一日 午後四時
- ・両讚寺墓回向
八月七日 別紙参照
- ・初盆棚経(西八区)
八月十三日
- ・檀信徒棚経(西八区)
八月十四日
- ・両讚寺盆施餓鬼会
八月十五日 午後二時
- ・恵心寺盆施餓鬼会
八月十六日 午前八時半
- ・地藏盆
行事中止

毎年、お盆の時期は皆様から多くのお気遣いをいただき、大変感謝しております。



両讚寺
恵心寺

発行 〒610-0343
京都府京田辺市
大住八河原九
宿谷真治
電話 0774-62-3137

コロナワクチンの接種が始まりました。もう済まされた方もいらっしゃるかと思えます。

ワクチン接種をすれば「身体」には抗体が出来上がりやす。では皆様の「心」に接種するワクチンは、抗体は、一体どこにあるのでしょうか？

私達人間は赤ちゃんとして生まれたての時には一般的な抗体を持っています。

それは「へその緒」を通じて母親から免疫をもらっているからです。

しかし、その抗体は生後6ヶ月頃にはなくなってしまう。

その為、赤ちゃんが風邪を引いては親が看病し、家の環境を整え、また親は子供を予防接種

に連れていくという努力を重ね、その結果、子供は自分独自の抗体を持つに至るのです。

つまり、子供は放っておいても自分の抗体を持つわけではなく、親が世話をし環境を整えてこそ自分自身の抗体を持つことが出来るのです。

身体の免疫一つとっても、このようなストーリーがあります。

そのストーリーはやはり、親から子に対する強い思い(思念)があるからこそ成り立つのではないのでしょうか。

では例えば、もっと長い時間軸で考えてみるとどうでしょうか？

自分の親も同じように両親に、その両親もそのまた両親に、代々に渡り受け続けてきた思いというものがあります。

そして今、目の前にある環境というものは、家のご先祖様、また地域の人やこの国の人

千年以上に渡り、連綿と受け継がれている思い(思念)があったからこそ、ある環境なのです。

仏教では「因果」を説き、思念(思い)は善・悪どちらにおいても、その人に報いが巡ってくると言います。

ご先祖様にしても現世の私達に対する思念をもってらっしゃいます。

ご先祖様が守って下さる。良い縁を振り向けて下さる。とは良く耳にしますが、それはご先祖様の思念(思い)があつてのことです。

つまり「心の抗体」というものは、すでにご先祖様から連綿として受け継がれているのです。

コロナ禍は続きますが、こんな時こそ、今年のお盆は、ご先祖様をおもてなしし、お互いの思念を確認しあう良い機会になることを祈念申し上げます。

「お仏壇でのお経の唱え方 その4」



令和2年特別号



両讚寺
恵心寺

発行 〒610-0343
京都府京田辺市
大住八河原九
宿谷真治
電話 0774-62-3137

八月は知恩院さんから出されて、「華頂」が休みの為、例年にならない特別号をお送りします。

五月から寺報にて「お仏壇でのお経の唱え方」を解説しております（あくまで両讚寺・恵心寺の宗派である浄土宗のお話になります。他宗はこの限りではないことご注意ください）。

先月はお仏壇にお供えする「お線香」についてお伝えしました。

そのお線香ですが、良く受ける質問に「お線香はお仏壇に何本お供えしたら良いですか？」というものがありません。

「お線香」についてお伝えする際は「一本」です。

なぜ一本なのか？という理

由ですが、これはお答え出来ないことになっていきます。

なぜなら、こちらは「五重相伝」という、浄土宗の信徒さん用に行われる修行道場（五日間）の最終日に口伝（くでん）としてのみ伝えられる奥義の一つだからです。

もし両讚寺で五重相伝を終えられた方で、「忘れた」という方は、誰もいない時にこっそり住職に聞いて下さい。

口伝 以外の理由として、作法の立ち居振る舞いという観点でも一本というのが一番品が良いように思えます。

日本が豊かになり今でこそ良いお線香を手に入れることが出来ますが、昔はお香というものは庶民では手に入れることが難しい高級品でした。

良く、テレビなどで一人で束まると火をつけて、煙がモクモクと立っている光景を目にします。

やはり、なるべく自分が「良い」「仏様やご先祖様に喜んでもらいたい」という物を選んで、一本ずつ大切に使うというのが、浄土宗らしいのではと思います。

また、お香というのは「嗅ぐ」とは言いません。

「聞く」と言います。「嗅ぐ」は積極的に匂いを認識しようという動作であるのに対し、「聞く」は自然にあるものを感じるという心の動作です。

道場の空間の変化や仏様の様子の变化、ご先祖様の気持ちを感じ「感じる」為の一つの作法として、お香が大切にされてきたことが言葉にも表れています。そう考えると、「一本」のお線香だからこそ心も研ぎ澄まされるのではないのでしょうか。

もし、本山へのお参りや西国四国の霊場巡りをされる時は、ぜひそのお寺でお授けされているお線香にも注目して下さい。

何度か注目しているうちに、そのお寺の個性や住持している僧侶のお香に対する思いを感じ取ることが出来ます。

「法事の時はお焼香台を出しておいた方が良いか？」という質問も良く耳にします。

もし、お家であれば出しておかれることをお勧めします。お坊さんが法事中に何度もお焼香をしますが、その全てにそれぞれの意味があります。

また、お経の最中に、参列者にお焼香台をまわします。

自分の番がまわってきた時は、お焼香をし、合掌をして、供養するご先祖様のことを心から思念（思い）し、十遍のお念仏を唱えて下さい。

次にまわすまで、多少時間が掛かっても大丈夫です。